

## 英語科学習指導案

令和6年9月20日(金)

第4校時 13時10分～14時00分

3年B組40名

指導者 白根 和延

1 単元名 Lesson3 The Story of Sadako  
「大分から平和の誓いを発信しよう」

## 2 単元設定の理由

## (1)教材について

- ・本単元では、修学旅行で広島原爆ドームを訪れている中学生と教師の会話や被爆者のさだこさんの物語を通して、平和について学ぶことができる。戦争を繰り返さないために現代を生きる人々ができることなどについて意見交換をすることで、平和に対する考えを深めることができる単元である。
- ・文法事項としては、後置修飾を学習する。後置修飾の用法を習得することで、伝えたい内容をより正確に、具体的に表現できるようになり、自己表現の幅を広げることができる言語材料である。
- ・本単元では、平和について書かれた英文を読んで自分の考えを書く活動を設定し、文章の要点を正確に読解する力と、読み取った英文を引用したり既習事項を駆使したりしながら文章を書く力を身に付けさせたい。また、学習指導要領の1目標(2)読むことウ「社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする」および(5)書くことウ「社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする」指導と位置付ける。

## (2)学習者について

- ・総合的な学習の時間で現代社会の諸問題を挙げる時間に、各国の紛争や人種差別に目を向ける姿があり、平和に関連する事象への問題意識は高い。しかし、授業時間でそれらについての自分の考えを、時間をかけて構築したり伝えたりする機会は少ない。
- ・英語を書いたり話したりする際、形容詞や副詞を積極的に用いて表現しようとする姿勢があるが、そのほとんどは前置修飾的用法である。後置修飾を習得することで、より多様に、そして、より具体的に英語で表現する力をつけたい。
- ・3年生 Can Do リストでは TOEFL Primary テストにおいてトータルスコア 216 以上(CEFR A2 前半相当)に到達することを掲げている。1年次では38名の生徒が、2年次では77名の生徒がトータルスコア 216 を超えている。また、「読むこと」については、単文の英文の文構造に着目し、コミュニケーションに支障をきたさずに意味内容を捉える力は高まってきた。しかし、定期考査での解答を見ると、まとまりのある文章の概要や要点を的確に把握する力には課題があると感じることもある。また、「書くこと」では、「Opening・Body・Closing」の構成に沿って考えを書く姿勢が身につけてきた。しかし、自分の考えや気持ちを表現するのに最適の言語材料を選択する力と、読み手の意向に沿う内容を発信する力に課題がある。そこで、文構造や使われている表現に着目して、論理的に読み手の真意を捉える力、英語表現を具体的な使用場面と結び付けて理解し活用する力、読み手の置かれた状況等を想像しながら適切な応答内容を書く力の育成が必要である。

## (3)指導について

- ・別府市役所でウクライナ避難民の母語支援員として活躍しているウクライナ出身の小野ヤーナさんが書いた、ウクライナ紛争を経験しての思いや平和への願いがこめられた手紙を読み、その返信を書く活動を単元末に設定する。手紙を通して小野ヤーナさんが伝えたいことは何かを読み取り、その思いに応える形で手紙の感想や平和に対する自分の考えを書かせることで、平和について深く考えさせたい。
- ・単元末の英作文で生徒が使用しそうな英語表現を、後置修飾を用いて表したものを生徒に配付し、帯活動的に口頭練習させる。まず音で慣れ親しませることで、後置修飾を生徒に身近なものにし、後置修飾の文型を使用場面と結びつけて定着させ、積極的に活用することを促したい。
- ・制限時間を設けて読み取った内容について級友と考えを伝え合ったり、級友の考えを全体共有したりする時間を設定することで、正確な読解のポイントをつかませたい。また、書いた英語について、自分とは異なる級友の英語表現や相手意識の深い内容を参考に取る時間とすることで、自分の英語表現の幅を広げたり、より深い相手意識をもたせたりしたい。

# 単元プランシート(英語科3年)

実施時期9月

単元名		大分から平和への誓いを発信しよう	
単元の目標		・平和に関する他者の意見を知り,平和についての自分の考えを発信するために,海外の人の平和への思いが伝わった手紙を読んで要点を捉え,平和への誓いを簡単な語句や文を用いて書くことができる。 (2)読むこと ア 日常的な話題について,簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができるようにする。 (5)書くこと ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて,考えたことや感じたこと,その理由などを,簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。	
評価 規 準	読む	知識・技能	① 後置修飾を用いた文の構造を理解している。 ② 後置修飾などの意味や働きの理解の基に,海外の人が書いた平和についての手紙の内容を読み取る技能を身に付けている。
		思考・判断・表現	① 平和に関する他者の意見を知り,自分の平和に対する考えをまとめるために,海外の人の書いた平和についての手紙から必要な情報を読み取っている。
		主体的に学習に取り組む態度	① 平和に関する他者の意見を知り,自分の平和に対する考えをまとめるために,海外の人の書いた平和についての手紙から必要な情報を読み取ろうとしている。
	書く	知識・技能	① 後置修飾を用いた文の構造を理解している。 ② 後置修飾などを用いて,平和についての自分の考えを簡単な語句や文を用いて書いている。
		思考・判断・表現	① 平和に対する自分の考えを発信するために,既習事項を駆使しながら,平和についての自分の考えを簡単な語句や文を用いて書いている。
		主体的に学習に取り組む態度	① 平和に対する自分の考えを発信するために,既習事項を駆使しながら,平和についての自分の考えを簡単な語句や文を用いて書こうとしている。

	学習内容	評価計画					
		読む			書く		
		知・技	思・判・表	主体	知・技	思・判・表	主体
1	・単元のゴールを知る。 ・目標を立てる。 ・後置修飾の文構造を知る。	①			①		
2	・GET Part1を理解する。 ・「伝える HIROSHIMA プロジェクト」に参加した広島市の中学生の書いた英文を読む。	②	①	①			
3	・GET Part2を理解する。 ・本文中の“What can we do?”という問いに対しての自分の考えを考え,平和についての自分の考えを書く。				②	①	①
4	・USE Read を読解する。 ・佐々木禎子さんについての英文を読む。	②	①	①			
5	・佐々木禎子さんの物語をふまえ,平和についての自分の考えを書く。				②	①	①
6	・小野ヤーナさんの平和への思いの手紙を読み取る。	①	①	①			
7	・小野ヤーナさんの手紙の内容をふまえ,平和についての自分の考えを書く。				②	①	①
8	・平和への誓いの下書きを完成させる。				②	①	①
9	・平和への誓いの清書を完成させる。 ・Lesson3 を振り返る。				②	①	①
後日	・ペーパーテストを実施する。	①②			①②		

○...記録に残す評価(総括的評価) ●...記録に残さない評価(形成的評価)

評価基準「読むこと」	
B	A
手紙に書かれた内容から書き手の伝えたいことを読み取ることができている。	手紙に書かれた内容から書き手の伝えたいことを読み取るとともに、そのメッセージにこめられた書き手の願いや考え方を読み取ることができている。
(期待する生徒のワークシートの記述例) ・平和な時間は戦争と戦争の間の時間で、平和の時間を大切にしないといけないと言っている。	(期待する生徒のワークシートの記述例) ・戦争が起きた時に備えないといけないと言っている。ヤーナさんは戦争がなくなることを願っているが、平和な時間は戦争と戦争の間の時間だと言っていて、戦争がなくなることは不可能だと考えているとわかるから、私たちにこう伝えている。

評価基準「書くこと」	
B	A
自分の考えや気持ちを述べている。	自分の考えや気持ちを理由と共に述べたり、手紙の内容を引用して述べたりしている。
(期待する生徒の成果物の例) I read a letter written by Ms.Ono. I think that real peace is that we can smile every day. If war happen, we may die. Many people will cry. Many people get injured and die. It is not peace. So, I think we can smile is important.	(期待する生徒の成果物の例) I read a letter written by Ms.Ono. I think that real peace is that we can smile every day. <u>In letter, Ms. Ono say that she couldn't sleep for a month.</u> She must be tired. I think she cryed sometimes. It's not peaceful. So, I think smile is important.

様式3 本時の指導

(1)本時の位置づけ(6/10)

(2)題材名 Lesson3 The Story of Sadako

(3)本時のねらい 海外の人の平和への思いがつつられた手紙について、書き手の伝えたいことを読み取る活動を通して、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができるようにする。

(4)展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価
4	1.前時の復習をする。	○英語でこれまでの学習を振り返る。 ・テレビにスライドを映す。 ・生徒と英語で対話しながら振り返る。	
15	2.小野ヤーナさんを紹介する。	○英語で小野ヤーナさんを紹介する。 ・テレビにスライドを映す。 ・生徒と英語で対話しながら紹介する。	
1	3. 本時のめあてを知る。	○本時のめあてを知らせる。	
小野ヤーナさんが附中3年生に伝えたいことを読み取ろう			
15	4.小野ヤーナさんの気持ちが表れている英文を探す。	○手紙とワークシートを配付する。 ○小野ヤーナさんからの手紙を読ませる。 ・6分間で読ませる。 ・小野ヤーナさんの気持ちが表れている部分に色ペンで線を引かせながら読ませる。 ○線を引いた箇所について、ペアで日本語で伝え合う。 ○全体で共有する。	【読む:知識・技能②】 【読む:思考・判断・表現①】 【読む:主体的に学習に取り組む態度①】:ワークシート・行動観察
10	5.小野ヤーナさんが伝えたいことを読み取る。	○小野ヤーナさんが伝えたいことを読み取り、ワークシートに日本語で書かせる。 ○考えをペアで日本語で伝え合わず。 ○全体で共有する。 ・クラスメイトの考えを聞いて新たに気づいた点はワークシートにメモを取らせる。	
6	6.振り返りをする。	○Chromebook の google スプレッドシートに振り返りを入力させる。 ・「ヤーナさんが手紙を通して伝えなかったこと」を読み取れたか否か、自分の学習状況を文章記述で振り返らせる。 ○次回、小野ヤーナさんの手紙を受けての平和への誓いを書く活動をするを伝える。 ○ワークシートを提出させる。	

(5)評価基準

評価基準「読むこと」	
B	A
手紙に書かれた内容から書き手の伝えたいことを読み取ることができている。	手紙に書かれた内容から書き手の伝えたいことを読み取るとともに、そのメッセージにこめられた書き手の願いや考え方を読み取ることができている。
(期待する生徒のワークシートの記述例) ・平和な時間は戦争と戦争の間の時間で、平和の時間を大切にしないといけないと言っている。	(期待する生徒のワークシートの記述例) ・戦争が起きた時に備えないといけないと言っている。ヤーナさんは戦争がなくなることを願っているが、平和な時間は戦争と戦争の間の時間だと言っていて、戦争がなくなることは不可能だと考えているとわかるから、私たちにこう伝えている。

(6) 学習記録計画

教室備付 TV	<p>めあて 小野ヤーナさんが附中3年生に伝えたいことを読み取ろう</p> <table border="1"><tr><td data-bbox="352 203 730 517">【sentences showing her feelings】 ..... ..... ..... ..... .. ..... ..... .....</td><td data-bbox="742 203 1120 517">【What she wants to tell us】 ..... ..... ..... ..... .. ..... ..... .....</td><td data-bbox="1131 203 1284 517">(新出語句) ..... ..... .....</td></tr></table>	【sentences showing her feelings】 ..... ..... ..... ..... .. ..... ..... .....	【What she wants to tell us】 ..... ..... ..... ..... .. ..... ..... .....	(新出語句) ..... ..... .....	教室備付 TV
【sentences showing her feelings】 ..... ..... ..... ..... .. ..... ..... .....	【What she wants to tell us】 ..... ..... ..... ..... .. ..... ..... .....	(新出語句) ..... ..... .....			

ワークシート
手紙





To students in Fuzoku Junior High School

My name is Ono Yana. I am 41. I am from Ukraine. I was in Ukraine in peacetime from 1989 to 2003. Later I moved to Japan.

But I remember classes held in peacetime at school on primary military training, not only for boys but also for girls. Such classes were made to teach children basic knowledge in case of war. For example, I remember my teacher saying that in case of bombing, we had to run to the subway. But our school was far away from the subway. I thought it was impossible. Everyone was laughing. We were not serious. We did not think that a war would happen in Ukraine. I thought that even if war starts, children will not be killed because they are innocent and they have not done bad things.

But recently, reality in Ukraine showed different things. In 2022, on February 24<sup>th</sup>, my relatives told me that a war started in Ukraine. I could not believe it. I was shocked very much. I started calling my relatives and my friends in Ukraine. I begged them to leave Ukraine. I worried about them and my house. The first month of the war I was in a very strong shock. I could not sleep. One day, when I was watching TV, I saw people running to the subway. They had to be in the subway for a long time. That reminded me of the lessons taken at school.

I thought that peacetime is just between two wars. I also thought that every nation needs to always be prepared to defend themselves in case of war. The war made me and many Ukrainians realize that we have to be thankful for peacetime and enjoy our lives. Before the war, we took it for granted and we did not appreciate it. But now I realized. Later, I heard that half of my hometown was destroyed.

Usual people like us cannot change world events and politics and unfortunately we cannot stop the war. But we can talk more about the importance of peace, teach our children to live in peace with each other and neighbors and learn how to respect other people's lives. And the most important thing is to learn to think individually and assess the situation independently, and to learn not to be influenced too much by other people's opinions because they are not always right. Also, a new war might begin somewhere else. We really need basic knowledge on how to protect ourselves in case of war.

By Ono Yana

Oita Prefecture, Beppu City

The head of NPO Beautiful World